

平成28年度佛教大学法然仏教学研究センター活動報告

第一部門 法然文献班

元亨版『和語燈録』本文・現代語訳対照本作成

班長 角 野 玄 樹

研究組織および専門分野

伊藤 真宏	仏教学部准教授（浄土学・日本仏教文化史）
市川 定敬	仏教学部講師（法然浄土仏教思想研究）
角野 玄樹	佛教大学非常勤講師（法然文献研究・法然思想研究）
齋藤 蒙光	東海学園大学共生文化研究所講師（法然浄土教）

平成28年度の研究

本紀要創刊号所載の活動報告において示したように、当班は、元亨版『和語燈録』の本文・現代語訳註本を完成させる目的で研究活動を行っている。また、当班は、故岸一英教授の追悼出版の後方支援するためのものであり、その基となるものが、佛教大学四条センターで行われた『和語燈録』の連続講義の担当者（岸一英氏、藤堂俊英氏、眞柄和人氏、本庄良文氏、安達俊英氏、善裕昭氏、伊藤真宏氏、角野）が作成した現代語訳や資料である。

本年度では、その現代語訳のうち、当班研究構成員でもあり、上記『和語燈録』連続講義の担当者の一人である伊藤真宏氏作成の現代語訳を取りあげている。そして、その伊藤氏作成訳を本庄良文研究員が修正し、その修正資料を基に、当班研究会参加者が検討している。

更に、その現代語訳検討のあと、本文訳註対照表の作成を行っている。

研究会の開催（平成28年1月～12月）

日 時 平成28年1月13日(水) 10:45～12:00

場 所 8号館伊藤真宏研究室

参加者 研究員1名、班員3名

内 容 伊藤氏担当訳の検討（「浄土宗略抄 その五」の「そのゆへは、仏はみな同心に衆生を引導し給に」から末尾まで、及び「鎌倉の二位の禅尼へ進ずるお返事 後半」冒頭から「雑善根をも修せしめ給へ、と御すすめ候べし。」まで）

日 時 平成28年1月27日(水) 10:45～12:00
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 研究員1名、班員3名
内 容 伊藤氏担当訳の検討(「鎌倉の二位の禅尼へ進ずるお返事 後半」の「一、この世のいのりに念仏の心をしらずして」から「ゆめゆめこの心よくよくつよくならせ給べし。」まで。)

日 時 平成28年2月10日(水) 13:20～14:20
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 研究員1名、班員3名
内 容 以下のとおり。
◇伊藤氏担当訳の検討(「鎌倉の二位の禅尼へ進ずるお返事 後半」の「一、念仏の行を信ぜぬ人にあひて論じ」から末尾まで。)
◇次回以降の研究会の段取りの話し合い。

日 時 平成28年2月24日(水) 13:00～13:50
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 研究員1名、班員3名
内 容 伊藤氏担当訳の検討(「鎌倉の二位の禅尼へ進ずるお返事 後半」の「たとひ千仏世にいでて」から末尾まで。)

日 時 平成28年3月9日(水) 10:30～12:20
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 研究員1名、班員3名
内 容 伊藤氏担当訳の検討(「要義問答 その五」の冒頭から「直に西にむかふにたとふる也。」まで。)

日 時 平成28年3月16日(水) 13:00～14:20
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 研究員1名、班員3名
内 容 伊藤氏担当訳の検討(「要義問答 その五」の「東の岸に人のこゑのすすめやるをききて」から末尾まで、及び「要義問答 その七」冒頭から「西方にむかはざれといふ。」まで。)

日 時 平成28年4月13日(水) 10:45～12:00
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 研究員1名、班員3名
内 容 伊藤氏担当訳の検討(「要義問答 その七」の「二に有縁の像と教とをうやまふといふは」から末尾まで。※齋藤蒙光嘱託研究員作成の訳などの修正案の資料を、当研究会で活用した。)

日 時 平成28年4月27日(水) 10:45～11:50
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 研究員1名、班員2名
内 容 伊藤氏担当訳の検討(「大胡太郎実秀へ遣わす御返事 その七」冒頭から末尾まで。※齋藤蒙光嘱託研究員作成の訳などの修正案の資料を、当研究会で活用した。)

日 時 平成28年5月18日(水) 10:45～12:00
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 研究員1名、班員3名
内 容 伊藤氏担当訳の検討(「津戸の三郎入道へ遣わす御返事 その一」冒頭から「うべからずといへる也。」まで。※齋藤蒙光嘱託研究員作成の訳などの修正案の資料を、当研究会で活用した。)

日 時 平成28年6月1日(水) 10:45～12:05
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 研究員1名、班員3名
内 容 伊藤氏担当訳の検討(「津戸の三郎入道へ遣わす御返事 その一」の「さればさやうに虚言をたくみて申候らん人は」から末尾まで、及び「正如房へつかはす御文(中)」冒頭から「たのみまいらせさせ給ふべく候。」まで。※齋藤蒙光嘱託研究員作成の訳などの修正案の資料を、当研究会で活用した。)

日 時 平成28年6月15日(水) 10:45～12:00
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 研究員1名、班員3名
内 容 以下のとおり。

◇前回の再検討。

◇伊藤氏担当訳の検討（「正如房へつかす御文（中）」の「もとよりほとけの来迎は、臨終正念のために候也。」から末尾まで。）

※齋藤蒙光嘱託研究員作成の訳などの修正案の資料を、当研究会で活用した。

日 時 平成28年 6 月29日(水) 10：45～12：00

場 所 8号館伊藤真宏研究室

参加者 研究員 1 名、班員 3 名

内 容 伊藤氏担当訳の検討（「十二箇条の問答（中）」の冒頭から「ひるがへさざれば、かならず往生する也。」まで。 ※齋藤蒙光嘱託研究員作成の訳などの修正案の資料を、当研究会で活用した。）

日 時 平成28年 7 月13日(水) 10：45～12：15

場 所 8号館伊藤真宏研究室

参加者 班員 3 名

内 容 伊藤氏担当訳の検討（「十二箇条の問答（中）」の「問ていはく、これ程にやすく往生せば」から末尾まで。 ※齋藤蒙光嘱託研究員作成の訳などの修正案の資料を、当研究会で活用した。）

日 時 平成28年 7 月27日(水) 10：45～11：50

場 所 8号館伊藤真宏研究室

参加者 研究員 1 名、班員 3 名

内 容 伊藤氏担当訳の検討（「十二箇条の問答（中）」の「ある時には、わが身の宿善をよろこぶべし」から末尾まで、及び「一百四十五箇条問答（その四）」の冒頭から「便あしくば、なくとも。」まで。 ※齋藤蒙光嘱託研究員作成の訳などの修正案の資料を、当研究会で活用した。）

日 時 平成28年 9 月28日(水) 10：45～12：10

場 所 8号館伊藤真宏研究室

参加者 研究員 1 名、班員 3 名

内 容 伊藤氏担当訳の検討（「一百四十五箇条問答（その四）」の「一、懺悔の事、幡や花鬘などかざり候べきか」から末尾まで、及び「一百四十五箇条問答（その七）」の「一、時するあした、御れうあまたにむかふいが候。」まで。 ※齋藤蒙光嘱託研究員作成の訳などの修正案の資料を、当研究会で活用した。）

日 時 平成28年10月12日(水) 10:45～11:40
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 研究員1名、班員3名
内 容 今後の『和語燈録』班研究会の進め方についての話し合い。

日 時 平成28年10月26日(水) 10:45～12:05
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 班員3名
内 容 伊藤氏担当訳の検討(「一百四十五箇条問答(その七)」の冒頭から末尾まで。)

日 時 平成28年11月9日(水) 10:45～11:45
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 班員2名
内 容 伊藤氏担当訳の検討(「一百四十五箇条問答(その九)」の冒頭から末尾まで。)

日 時 平成28年12月7日(水) 10:45～12:00
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 研究員1名、班員3名
内 容 以下のとおり。
◇伊藤氏担当訳の検討(「一百四十五箇条問答(その九)」の「一、仏に花まいらす
る誦文」から末尾まで、及び「御歌」全て、及び「登山状(その五)」冒頭から
「本国のきしにいたりぬ。」まで。※齋藤蒙光嘱託研究員作成の訳などの修正案の
資料を、当研究会で活用した。)
◇同年12月9日の法然仏教学研究センターの全体会における当班の発表に関する話
し合い。

日 時 平成28年12月21日(水) 10:45～12:05
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 研究員1名、班員3名
内 容 伊藤氏担当訳の検討(「登山状(その五)」の「ここにもろもろの竜神なげきていは
く」から「博地のともがらをみちびくべし。」まで。)

第一部門 法然文献班 桑門秀我『選擇本願念佛集講義』現代語訳

班長 本 庄 良 文

研究組織および専門分野

昨年度に引き続き班員は以下の二名である。

本庄 良文 仏教学部教授（浄土学・仏教学）

上野 忠昭 浄土宗浄願寺副住職（中国仏教・法然浄土教）

平成28年度の研究

16章全部の準備原稿はすでに完成している。今年度は上野が第11章を、本庄が第14, 15章の翻刻ならびに訳注を公表することができた。本庄の原稿については、典拠調べが必ずしも十分でないので、適宜、佛教大学研究員等の協力を得ている。

研究会の開催（平成28年1月～12月）

互いに遠距離であることから、従来通り、班としては行っておらず、上野が佛教大学での全体会に出席することの出来る折に、情報交換を行うのみである。普段は、インターネットの掲示板等で、随時、進行状況を確認している。互いの原稿をチェックし合い、遺漏のないように努めている。

第一部門 『逆修説法』 班 『逆修説法』諸本対照本作成、古本『漢語燈録』を中心とする本文批判

班長 眞 柄 和 人

研究組織および専門分野

眞柄 和人 知恩院浄土宗学研究所嘱託研究員（法然仏教伝承過程）
齋藤 蒙光 東海学園大学共生文化研究所講師（法然浄土教）
吉原 寛樹 佛教大学大学院文学研究科浄土学専攻修士課程修了（『逆修説法』研究）
岩谷 隆法 佛教大学大学院文学研究科浄土学専攻博士後期課程満期退学（法然文献）

平成28年度の研究

善照寺本『古本漢語燈録』巻七・巻八を基礎資料として、他の諸本の本文を参照、比較対照しながら、『逆修説法』の翻刻・現代語訳・註釈を完成させる作業を行っている。平成27年度の研究会で『写真集成本』（浄土宗総合研究所編『黒谷上人語燈録写真集成』1）251頁5行目までの作業が終了し、平成28年度は、引き続き下記のごとく研究会がおこなわれている。

研究会の開催（平成28年1月～12月）

日 時 1月8日(金) 13:00～14:30
場 所 別館401号室
参加者 班員3名（齋藤、吉原、岩谷）
内 容 岩谷隆法担当 『写真集成本』251頁5行目～253頁7行目
担当箇所の訓読と現代語訳について討議。

日 時 1月22日(金) 13:00～14:30
場 所 別館401号室
参加者 班員4名（眞柄、齋藤、吉原、岩谷）
内 容 岩谷隆法担当 『写真集成本』253頁7行目～256頁2行目
担当箇所の訓読と現代語訳について討議。

日 時 2月12日(金) 13:00～15:00
場 所 別館401号室
参加者 班員3名（齋藤、吉原、岩谷）
内 容 吉原寛樹担当 『写真集成本』256頁3行目～259頁5行目

担当箇所の訓読と現代語訳について討議。

日 時 4月15日(金) 11:00～12:30

場 所 別館401号室

参加者 班員4名(眞柄、齋藤、吉原、岩谷)

内 容 吉原寛樹担当 『写真集成本』259頁5行目～263頁10行目
担当箇所の訓読と現代語訳について討議。

日 時 4月22日(金) 13:00～14:30

場 所 別館401号室

参加者 班員3名(眞柄、齋藤、岩谷)

内 容 齋藤蒙光担当 『写真集成本』264頁1行目～268頁9行目
担当箇所の訓読と現代語訳について討議。

日 時 5月6日(金) 13:00～14:30

場 所 別館401号室

参加者 班員4名(眞柄、齋藤、吉原、岩谷)

内 容 齋藤蒙光担当 『写真集成本』268頁9行目～269頁9行目
担当箇所の訓読と現代語訳について討議。
岩谷隆法担当 『写真集成本』269頁9行目～271頁7行目
担当箇所の訓読と現代語訳について討議。

日 時 5月20日(金) 13:00～14:30

場 所 別館401号室

参加者 班員4名(眞柄、齋藤、吉原、岩谷)

内 容 岩谷隆法担当 『写真集成本』271頁7行目～275頁4行目
担当箇所の訓読と現代語訳について討議。

日 時 6月24日(金) 13:00～14:30

場 所 別館401号室

参加者 班員4名(眞柄、齋藤、吉原、岩谷)

内 容 吉原寛樹担当 『写真集成本』275頁4行目～276頁6行目
担当箇所の訓読と現代語訳について討議。

日 時 8月26日(金) 10:00～12:00
場 所 別館401号室
参加者 班員3名(眞柄、吉原、岩谷)
内 容 吉原寛樹担当 『写真集成本』276頁6行目～278頁10行目
担当箇所の訓読と現代語訳について討議。

日 時 9月30日(金) 13:00～14:00
場 所 別館401号室
参加者 班員4名(眞柄、齋藤、吉原、岩谷)
内 容 今までの訓読・下訳を元に凡例や注記の確認作業。

日 時 10月7日(金) 13:00～14:00
場 所 別館401号室
参加者 班員3名(齋藤、吉原、岩谷)
内 容 岩谷隆法担当 『写真集成本』141頁1行目～147頁4行目の訓読・下訳を元に凡例
や注記の確認作業。

日 時 10月21日(金) 13:00～14:00
場 所 別館401号室
参加者 班員3名(眞柄、齋藤、吉原)
内 容 書き下し・現代語訳・訳注の凡例について討議。

日 時 11月11日(金) 13:00～14:00
場 所 佛教大学別館401号室
参加者 班員4名(眞柄・齋藤・吉原・岩谷)
内 容 岩谷隆法担当 『写真集成本』141頁1行目～147頁4行目
訓読・下訳を元に凡例や注記の確認作業。

第二部門 『摧邪輪』 班 明恵 『摧邪輪』 寛永版訓読・現代語訳

班長 米 澤 実江子

研究組織および専門分野

中御門敬教 佛教大学非常勤講師（インド・チベット浄土教／顕密の浄土教）

米澤実江子 浄土宗総合研究所嘱託研究員（日本仏教〔中世〕）

平成28年度の研究

『摧邪輪』には数本の写刊本が存在し、既に寛永年間版本を底本とした、書き下し（全）・校補注（全）・現代語（巻上）が校にされている。

当班では、平成25年より寛永年間版本巻中からの書き下し・註・訳の確認作業を始め、平成26年9月以降は、研究会を開催せず、米澤が作業を継続している。

研究進捗報告（平成28年1月～12月）

◆平成27年度（1月～）

1月：付注・現代語訳（～38丁裏）の検討。

2月：付注・現代語訳（～42丁裏）の検討。

◆平成28年度

4月：付注・現代語訳（～45丁表）の検討。

『法然仏教学研究センター紀要』第3号原稿作成。

5月：付注・現代語訳（～46丁表）の検討。

『法然仏教学研究センター紀要』第3号原稿作成。

6月：付注・現代語訳（～49丁表）の検討。

『法然仏教学研究センター紀要』第3号原稿作成。

7月：『法然仏教学研究センター紀要』第3号原稿見直し。

10月：『法然仏教学研究センター紀要』第3号原稿見直し。

11月：凡例ならびに「第4の批判」「第5の批判」の見直し。

12月：凡例・註記・表記についての見直し。

第二部門 門下班 門下研究目録作成

班長 伊 藤 茂 樹

研究組織および専門分野

伊藤 真宏 仏教学部准教授（浄土学、日本仏教文化史）

伊藤 茂樹 法然仏教学研究センター嘱託研究員（日本仏教史、浄土宗学）

平成28年度の研究

昨年度から継続して門流の研究のデータを収集しデータ化している。本年度は、主に個別の研究目録収集、またデータ化に時間をかけ研究会の開催は行っていない。隆寛・源智研究を主な課題として進めている。今後、成果の報告の公表を検討している。なお、データ化については、杉山憲哉氏（法然仏教学センター学術研究員）、齋藤善昭氏（佛教大学大学院修士課程修了）、加藤良全氏（佛教大学大学院修士課程修了）の研究協力者に協力をお願いしている。

第二部門 『往生要集鈔』 関係班 『往生要集鈔』『往生要集義記』 諸本対照・訓読・現代語訳

班長 南 宏 信

研究組織および専門分野

本庄 良文 仏教学部教授（浄土学・仏教学）

南 宏信 知恩院浄土宗学研究所研究助手（仏教文献学（浄土学））

平成28年度の研究

- ・『往生要集義記』 現代語訳

適宜作業中である。

- ・『往生要集鈔』 諸本の翻刻

現在第1巻の諸本対照表を作成中である。

- ・以下の研究会・学会で発表を行った。

① 〈日本印度学仏教学会 第67回学術大会〉

日 時 平成28年9月3日(土)・4日(日)

場 所 東京大学

題 目 「法然「選択証誠」成立考—『法事讃』『如来要選法』をめぐって—」

※発表は同題目で『印度学仏教学会』第65巻第1号に掲載した。

② 〈平成28年度 浄土宗総合学術大会〉

日 時 平成28年9月15日(木)・16日(金)

場 所 佛教大学

題 目 「法然「選択証誠」と「念仏多善根」

※発表は同題目で『東山研究紀要』第61巻に掲載予定である。

③ 〈法然仏教学研究センター 第4回研究会〉

日 時 平成28年10月14日(金)

場 所 佛教大学

題 目 法然「選択証誠」成立考

※上記①②を含め、更に敷衍したものである。

④ 〈第四回佛教文献與文學國際學術研討會〉

日 時 平成28年11月4日(金)—7日(月)

場 所 中国浙江大學紫金港校區と徑山萬壽禪寺

題 目 「日本中世浄土教における一切經の受容—良忠『往生要集鈔』を例として—」

※上記④を東海学園共生文化研究所研究会（11月28日(月)）にて発表した。

⑤〈知恩院浄土宗学研究所 月例研究会〉

日 時 平成28年12月25日(日)

場 所 知恩院浄土宗学研究所

題 目 良忠『往生要集鈔』が見た一切経の系譜

※上記④の発表を日本古写経を用いて敷衍したものである。

※上記発表はいずれも平成27年～30年度科学研究費助成事業・若手研究（B）

「中世における新出写本の文献学的研究」課題番号15K16621における研究成果の一部である。

研究会の開催（平成27年1月～12月）

班別研究会は開催していない。

第二部門 中国関係班 道綽『安楽集』解説・現代語訳・文献批判

班長 齊 藤 隆 信

研究組織および専門分野

齊藤隆信 仏教学部教授（浄土教思想、中国仏教）
曾和義宏 仏教学部准教授（浄土学、中国浄土教理史）
加藤弘孝 知恩院浄土宗学研究所研究助手（中国仏教、浄土教思想）
永田真隆 文学研究科博士後期課程浄土学専攻満期退学（往生伝研究）

平成28年度の研究

毎回の研究会では『安楽集』の訳註を作成している。同書の訳註はこれまでも数回報告されているが、今回改めて訳註班を立ちあげたのは、宗典研究にありがちな依義判文や望文生義への反省がこめられている。ただし、これらをすべて否定し排除するのではないが、『安楽集』をいったん漢籍として、その語彙語法に注意を払いながら、一字一句ゆるがせにせず精読することにつとめている。今年度の前半は第一大門の見直しを行った。その成果は来年度の本誌に掲載する予定である。なお小川法道氏（佛教大学大学院博士課程）も加わって、概ね隔週で研究会を開催した。

研究会の開催等（平成28年1月～12月）

【平成27年度】

第11回（通算43回）研究会

日 時：1月15日（金） 13：00-14：30

内 容：是故経云以是本因縁～故知惡道身多（第三大門第三）

第12回（通算44回）研究会

日 時：2月12日（金） 13：00-14：30

内 容：何故如此但惡法～若不生者不取正覺（第三大門第三）

第13回（通算45回）研究会

日 時：3月18日（金） 13：00-14：30

内 容：又復一切衆生都不自量～安楽集卷上（第三大門第三、第四）

【平成28年度】

第1回（通算46回）研究会

日 時：4月8日（金） 13：00-14：30

内 容：研究成果の公表についての打合せ

第2回（通算47回）研究会

日 時：4月22日（金） 13：00-14：30

内 容：第一大門の見直し

第3回（通算48回）研究会

日 時：5月6日（金） 13：00-14：30

内 容：第一大門の見直し

第4回（通算49回）研究会

日 時：5月20日（金） 12：30-13：30

内 容：第一大門の見直し

第5回（通算50回）研究会

日 時：6月24日（金） 13：00-14：30

内 容：第一大門の見直し

第6回（通算51回）研究会

日 時：7月8日（金） 13：00-14：30

内 容：第一大門の見直し

第7回（通算52回）研究会

日 時：7月15日（金） 13：00-14：30

内 容：第一大門の見直し

第8回（通算53回）研究会

日 時：7月21日（木） 12：30-14：00

内 容：第一大門の見直し

第9回（通算54回）研究会

日 時：7月29日（金） 11：00-12：30

内 容：第一大門の見直し

第10回（通算55回）研究会

日 時：9月30日（金） 13：00-14：30

内 容：第四大門中有三番料簡～則有齊朝上統（第四大門）

第11回（通算56回）研究会

日 時：10月21日（金） 13：00-14：30

内 容：然前六大徳並是二諦神鏡～皆勸帰浄国（第四大門）

第12回（通算57回）研究会

日 時：11月11日（金） 13：00-14：30

内 容：是故法師臨命終時～不可思議也（第四大門）

第13回（通算58回）研究会

日 時：12月 2 日(金) 13：00-14：30

内 容：第二明此彼諸經～而為説法

第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』諸本蒐集および教理的根拠の探索

班長 眞 柄 和 人

研究組織および専門分野

眞柄 和人 知恩院浄土宗学研究所嘱託研究員（浄土仏教学）

高津 晴生 佛教大学大学院文学研究科浄土学専攻博士後期課程満期退学（浄土宗における戒）

武田 真享 佛教大学大学院文学研究科浄土学専攻博士後期課程満期退学（厭欣思想）

平成28年度の研究

浄土宗傳法関係書『真葛伝語』の本文を確定と、訳注。

研究員の個別の関心に応じて、七祖聖罔の思想や菩薩戒の研究も進めている。

研究会の開催（平成28年1月～12月）

日 時：平成28年1月8日（金）15：00～16：30

場 所：佛教大学 8号館1階 オープンスペース

出席者：高津、武田

範 囲：33頁1行～69頁9行（九個條全体）

内 容：これまで担当者別に入力した九個條全体の本文と現代語訳の統合作業。

日 時：平成28年1月29日（金）13：00～16：00

場 所：佛教大学 8号館1階 共同資料室

出席者：眞柄、高津、武田

範 囲：68頁6行「一期大要秘密集、……」～69頁9行「……後賢、正し玉へ」（高津）

内 容：「氣息伝」の本文入力確認と現代語訳の検討。

日 時：平成28年3月4日（金）13：30～15：00

場 所：佛教大学 8号館1階 共同資料室

出席者：高津、武田

範 囲：71頁1行「真葛伝語……」～73頁1行「……第五凡入報土伝なり」本文入力確認と現代語訳（武田）

内 容：「五重自証の法」の授受についての意義を検討。

日 時：平成28年 4 月15日(金) 14：30～15：00

場 所：佛教大学

出席者：眞柄、高津、武田

内 容：伝法班の今後の活動内容について確認。

- ・『真葛伝語』「五個條」の翻刻と現代語訳
- ・『真葛伝語』「九個條」の現代語訳の再確認
- ・佛教大学図書館所蔵の伝書の調査と目録作成の可否

日 時：平成28年 5 月11日(水) 10：00～12：30

場 所：佛教大学 別館 4 階 401号室

出席者：眞柄、高津、武田

範 囲：71頁 1 行「真葛伝語………」～73頁 1 行「……………第五凡入報土伝なり」現代語訳
(武田) の検討

内 容：「自度」、「自証」、「決定」などの語義を確認し、適切な訳語の検討。

日 時：平成28年 5 月18日(水) 9：00～10：30

場 所：佛教大学 別館 4 階 401号室

出席者：眞柄、高津、武田

範 囲：73頁 2 行「第一宗脈以上化他門伝とは……………」～73頁 9 行「……………と云うものなり」本文入力確認と現代語訳 (高津)

内 容：「化他決定自証」についてその境地が如何なる状態であるのか、この境地を如何に体得するかなどの内容を検討。

日 時：平成28年 5 月27日(金) 11：00～12：30

場 所：佛教大学 別館4階 401号室

出席者：眞柄、高津、武田

範 囲：73頁10行「然るに今、……………」～74頁 9 行「……………題するなり。」(高津)

内 容：「第一宗脈以上化他門伝」の徳分と名称について検討。

日 時：平成28年 6 月 8 日(水) 10：00～12：00

場 所：佛教大学 別館 4 階 401号室

出席者：眞柄、高津、武田

範 囲：74頁10行「第二都部伝とは、……………」～76頁 7 行「……………こともなきなり。」本文
入力と現代語訳 (武田)

内 容：「第二都部伝」について、名称と内容について検討。

日 時：平成28年7月6日(水) 10:00～12:00

場 所：佛教大学 別館4階 401号室

出席者：眞柄、高津、武田

範 囲：76頁8行「第三授手印伝とは、……」～77頁6行「……〈糺抄二十一、四紙〉」
本文入力と現代語訳（高津）

内 容：「第三授手印伝」について、別名と伝授作法、伝授の意義について検討。
別名の中、「合血」、「冥合」、「境智」などの用語検討。

日 時：平成28年7月21日(木) 9:00～10:30

場 所：佛教大学 別館4階 401号室

出席者：眞柄、高津、武田

範 囲：2頁・5頁1行～7行「……学解なき者に於てをや。」

内 容：九個條の現代語訳の推敲。
※仏教語や難解な語句の整頓方法を検討。

日 時：平成28年9月27日(火) 13:00～15:30

場 所：佛教大学 別館4階 401号室

出席者：眞柄、高津、武田

範 囲：77頁7行「第四総口伝とは、……」～78頁5行「……盛んなり。」本文入力と
現代語訳（高津）

内 容：上記の範囲の本文入力確認と現代語訳の検討。
「形名伝」の検討。
その他、伝法班年間計画についての確認。

日 時：平成28年10月25日(火) 13:00～16:30

場 所：佛教大学 別館4階 401号室

出席者：眞柄、高津、武田

範 囲：78頁5行「此の三十四字、……」～85頁5行「……直正と云ふ。」本文入力と
現代語訳（武田）

内 容：上記の範囲の本文入力確認と現代語訳の検討。
「已証傍人伝」の中、「直正」と「直面」についての検討。

日 時：平成28年11月11日(金) 10：00～12：00

場 所：佛教大学 別館 4 階 401号室

出席者：眞柄、高津、武田

範 囲：78頁 5 行「此の三十四字、……………」～85頁 5 行「……………直正と云ふ。」(武田)

内 容：上記の範囲の「直正」と「直面」の内容について再検討。

日 時：平成28年11月29日(火) 13：00～16：30

場 所：佛教大学 別館 4 階 401号室

出席者：眞柄、高津

範囲：80頁 5 行「是れ恐らくは、……………」～82頁 2 行「……………事に及ばず。」(高津)

内 容：第51回研究会の範囲と今回の範囲の「直正」と「直面」の内容について検討。

日 時：平成28年12月13日(火) 13：00～15：30

場 所：佛教大学 8 号館 4 階 伊藤真宏研究室

出席者：眞柄、伊藤真、曾和、高津

範 囲：77頁 7 行「第四総口伝とは……………」～80頁 8 行「……………惜しむべし。」

内 容：「直正」と「直面」の内容について再検討。

第三部門 伝宗伝戒班
聖岡『決疑鈔直牒』身延文庫本の研究

班長 南 宏 信

研究組織および専門分野

南 宏信 知恩院浄土宗学研究所研究助手（仏教文献学（浄土学））

平成28年度の研究

前年度発表した身延文庫蔵『決疑鈔議』（断簡）を翻刻作業中である。

※翻刻は本誌第4号（平成29年度）に掲載予定である。

※上記作業は平成27年～30年度科学研究費助成事業・若手研究（B）「中世における新出写本の文献学的研究」課題番号15K16621における研究成果の一部である。

研究会の開催（平成28年1月～12月）

班別研究会は開催していない。

法然仏教学研究センター組織

センター長	本庄 良文			
研究推進機構会議委員	藤井 透*	大西磨希子	李 昇燁	
	中道 泰子	山本 奈生	松岡 千代	
	長谷川順子	森 智女	鳥羽 典子	
	中原 健二**	國枝 利行**	岸田稔穂子**	
運営会議構成員	本庄 良文*	齊藤 隆信	伊藤 真宏	曾和 義宏
	市川 定敬	大西 伸江		
	鳥羽 典子**	山本 博子**		
職員	大西 伸江	山本 博子		

(*は委員長、**はオブザーバー)

研 究 組 織

■「法然仏教の多角的研究」

研究員	本庄 良文	嘱託研究員	角野 玄樹
研究員	齊藤 隆信	嘱託研究員	南 宏信
研究員	伊藤 真宏	嘱託研究員	齋藤 蒙光
研究員	曾和 義宏	嘱託研究員	加藤 弘孝
研究員	市川 定敬	嘱託研究員	永田 真隆
嘱託研究員	眞柄 和人	嘱託研究員	吉原 寛樹
嘱託研究員	上野 忠昭	嘱託研究員	高津 晴生
嘱託研究員	中御門敬教	嘱託研究員	岩谷 隆法
嘱託研究員	伊藤 茂樹	嘱託研究員	武田 真享
嘱託研究員	米澤 実江子	学術研究員	杉山 憲哉

活 動 記 録 (平成28年 1月～12月)

平成28年 (2016年)

- 1月8日(金) 研究会(第一部門 逆修説法班 『逆修説法』)
研究会(第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』)
- 13日(水) 第8回法然仏教学研究センター運営会議
研究会(第一部門 法然文献班 『和語燈録』)
- 15日(金) 研究会(第二部門 中国関係班 『安楽集』)
- 20日(水) 第13回研究推進機構会議
- 22日(金) 第7回法然仏教学研究センター研究会(法然仏教の多角的研究)
研究会(第一部門 逆修説法班 『逆修説法』)
- 27日(水) 研究会(第一部門 法然文献班 『和語燈録』)
- 29日(金) 研究会(第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』)
- 2月8日(月) 第14回研究推進機構会議
- 10日(水) 研究会(第一部門 法然文献班 『和語燈録』)
- 12日(金) 研究会(第一部門 逆修説法班 『逆修説法』)
研究会(第二部門 中国関係班 『安楽集』)
- 22日(月) 第15回研究推進機構会議
- 24日(水) 研究会(第一部門 法然文献班 『和語燈録』)
- 3月4日(金) 研究会(第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』)
- 9日(水) 第16回研究推進機構会議
研究会(第一部門 法然文献班 『和語燈録』)
- 16日(水) 研究会(第一部門 法然文献班 『和語燈録』)
- 18日(金) 研究会(第二部門 中国関係班 『安楽集』)
- 23日(水) 第17回研究推進機構会議
- 4月8日(金) 研究会(第二部門 中国関係班 『安楽集』)
- 13日(水) 第1回研究推進機構会議
研究会(第一部門 法然文献班 『和語燈録』)
- 15日(金) 第1回法然仏教学研究センター研究会(法然仏教の多角的研究)
研究会(第一部門 逆修説法班 『逆修説法』)
研究会(第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』)
- 20日(水) 第1回法然仏教学研究センター運営会議

- 22日(金) 研究会(第一部門 逆修説法班 『逆修説法』)
研究会(第二部門 中国関係班 『安楽集』)
- 27日(水) 第2回研究推進機構会議
研究会(第一部門 法然文献班 『和語燈録』)
- 5月6日(金) 研究会(第一部門 逆修説法班 『逆修説法』)
研究会(第二部門 中国関係班 『安楽集』)
- 11日(水) 研究会(第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』)
- 17日(火) 第2回法然仏教学研究センター運営会議
- 18日(水) 第3回研究推進機構会議
研究会(第一部門 法然文献班 『和語燈録』)
研究会(第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』)
- 20日(金) 研究会(第一部門 逆修説法班 『逆修説法』)
研究会(第二部門 中国関係班 『安楽集』)
- 27日(金) 第2回法然仏教学研究センター研究会(法然仏教の多角的研究)
研究会(第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』)
- 6月1日(水) 第4回研究推進機構会議
研究会(第一部門 法然文献班 『和語燈録』)
- 8日(水) 研究会(第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』)
- 14日(火) 第3回法然仏教学研究センター運営会議
- 15日(水) 研究会(第一部門 法然文献班 『和語燈録』)
- 17日(金) 第3回法然仏教学研究センター研究会(法然仏教の多角的研究)
- 22日(水) 第5回研究推進機構会議
- 24日(金) 研究会(第一部門 逆修説法班 『逆修説法』)
研究会(第二部門 中国関係班 『安楽集』)
- 29日(水) 研究会(第一部門 法然文献班 『和語燈録』)
- 7月5日(水) 研究会(第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』)
- 8日(金) 研究会(第二部門 中国関係班 『安楽集』)
- 9日(土) 法然仏教学研究センター講演会
- 13日(水) 第6回研究推進機構会議
研究会(第一部門 法然文献班 『和語燈録』)
- 15日(金) 研究会(第二部門 中国関係班 『安楽集』)
- 19日(火) 第4回法然仏教学研究センター運営会議
- 21日(木) 研究会(第二部門 中国関係班 『安楽集』)
研究会(第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』)

- 27日(水) 第7回研究推進機構会議(中止)
研究会(第一部門 法然文献班 『和語燈録』)
- 29日(木) 研究会(第二部門 中国関係班 『安楽集』)
- 8月26日(金) 研究会(第一部門 逆修説法班 『逆修説法』)
- 9月6日(火) 第8回研究推進機構会議
- 21日(水) 第9回研究推進機構会議
- 9月27日(火) 研究会(第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』)
- 28日(水) 研究会(第一部門 法然文献班 『和語燈録』)
- 30日(金) 研究会(第一部門 逆修説法班 『逆修説法』)
研究会(第二部門 中国関係班 『安楽集』)
- 10月5日(水) 第10回研究推進機構会議(中止)
- 7日(金) 研究会(第一部門 逆修説法班 『逆修説法』)
- 11日(火) 第5回法然仏教学研究センター運営会議
- 12日(水) 研究会(第1部門 法然文献班 『和語燈録』)
- 14日(金) 第4回法然仏教学研究センター研究会(法然仏教の多角的研究)
- 19日(水) 第11回研究推進機構会議
- 21日(金) 研究会(第一部門 逆修説法班 『逆修説法』)
研究会(第二部門 中国関係班 『安楽集』)
- 25日(火) 研究会(第三部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』)
- 26日(水) 研究会(第一部門 法然文献班 『和語燈録』)
- 11月2日(水) 第12回研究推進機構会議
- 8日(火) 第6回法然仏教学研究センター運営会議
- 9日(水) 研究会(第1部門 法然文献班 『和語燈録』)
- 11日(金) 研究会(第1部門 逆修説法班 『逆修説法』)
研究会(第2部門 中国関係班 『安楽集』)
研究会(第3部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』)
- 16日(水) 第13回研究推進機構会議
- 25日(金) 第5回法然仏教学研究センター研究会(法然仏教の多角的研究)
- 29日(火) 研究会(第3部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』)
- 12月2日(金) 研究会(第2部門 中国関係班 『安楽集』)
- 7日(水) 第14回研究推進機構会議
研究会(第1部門 法然文献班 『和語燈録』)
- 9日(金) 第6回法然仏教学研究センター研究会(法然仏教の多角的研究)
- 13日(火) 研究会(第3部門 伝宗伝戒班 『真葛伝語』)

21日(水) 第15回研究推進機構会議

研究会(第1部門 法然文献班 『和語燈録』)